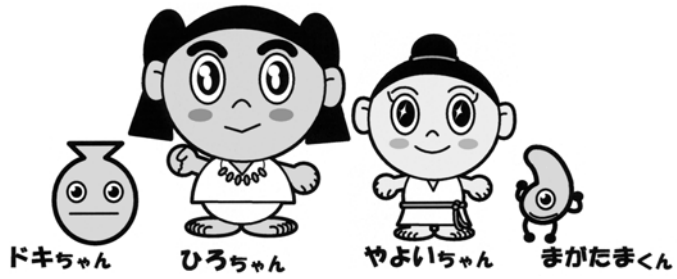
公益財団法人広島県教育事業団埋蔵文化財調査室 活動報告 第５集

平成26年度 ひろしまの遺跡を語る

弥生時代の船

－大航海時代のさきがけ－

記録集



平成28（2016）年
公益財団法人広島県教育事業団

目　　次

開会あいさつ …… （1）
報告Ⅰ「弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡（第７次）の発掘調査」
埋蔵文化財調査室　主任調査研究員　尾崎　光伸 …… （2）
報告Ⅱ「御領遺跡の土器に描かれた弥生時代の船を考える」
埋蔵文化財調査室　室　　長　　伊藤　　実 …… (18)
講演　「描かれた日本古代の船」
前奈良文化財研究所副所長・現客員研究員
天理大学客員教授　　深澤　芳樹 …… (36)
座談会「御領遺跡の船の絵と古代の船」
深澤　芳樹・伊藤　　実・尾崎　光伸 …… (65)
閉会あいさつ …… (78)

平成26年度 ひろしまの遺跡を語る「弥生時代の船－大航海時代のさきがけ－」

【日程】平成27年１月24日（土）　13：00～16：30
【会場】広島県立美術館　地下１階　講堂
【内容】
13：00～13：10　開会行事
13：10～13：35　報告Ⅰ「弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡（第７次）の発掘調査」
埋蔵文化財調査室　主任調査研究員　尾崎　光伸
13：35～14：00　報告Ⅱ「御領遺跡の土器に描かれた弥生時代の船を考える」
埋蔵文化財調査室　室　長　　伊藤　　実
14：00～15：00　講　演「描かれた日本古代の船」
前奈良文化財研究所副所長・現客員研究員
天理大学客員教授　　深澤　芳樹
15：15～15：50　座談会『御領遺跡の船の絵と古代の船』
パネラー　深澤　芳樹，伊藤　　実，尾崎　光伸
15：50～16：00　閉会行事

＜主催＞　公益財団法人広島県教育事業団

〔表紙写真：御領遺跡第７次調査　ＳＫ37出土の船の絵のある弥生土器〕
（撮影：奈良文化財研究所　写真室　中村一郎）

開会あいさつ

公益財団法人広島県教育事業団

理事長　大原　節雄

皆さん，こんにちは。本日は，「平成26年度ひろしまの遺跡を語る」を開催いたしましたところ，このように大勢の方に御参加いただきまして，まことにありがとうございます。

この「ひろしまの遺跡を語る」という催しは，今回で34回目を迎えました。これもひとえに，本日お越しの皆様方を初め，多くの方々の御支援のたまものでございまして，心から感謝を申し上げます。

さて，今回は，当事業団が平成25年度に発掘調査を行いました福山市神辺町の御領遺跡から出土した船の絵が描かれた弥生土器，これにスポットを当てまして，「弥生時代の船－大航海時代のさきがけ－」というテーマで開催いたします。この土器につきましては，昨年末でございますけども，報道発表を行ったところ，テレビ，新聞等で取り上げられまして，大きな反響を呼んだところでございます。

本日は，当事業団の職員２人による報告の後，弥生時代の研究が御専門の前奈良文化財研究所副所長の深澤芳樹さんに，「描かれた日本古代の船」と題した御講演をお願いしております。これらに引き続きまして，深澤芳樹さんを中心に御領遺跡から出土した船の絵について座談会を行います。

当事業団では，これからのさまざまな機会を捉えて，日ごろの発掘調査や調査研究の成果の公開に努めてまいりたいと考えております。皆様方には，今後とも私どもの埋蔵文化財の調査研究，そしてこれらを次の世代に継承していくという取り組みに対しまして，より一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げまして，開会の挨拶といたします。

報告Ⅰ「弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡（第７次）の発掘調査」

埋蔵文化財調査室　主任調査研究員　　尾崎　光伸

皆さん，こんにちは。埋蔵文化財調査室の尾崎と申します。今日はよろしくお願いいたします。

私は，弥生時代の船の絵が見つかった御領遺跡第７次の発掘調査の報告をさせていただきたいと思います。

この御領遺跡第７次調査は，先ほど理事長からも紹介がありましたように，一昨年夏から発掘調査を行って，ちょうど１年前，昨年の１月まで約半年間発掘調査を行いました。今回，船の絵が見つかったということで，新聞等で大きく取り上げてもらったわけなんですけど，ある方とちょっとお話をしていて「尾崎さん，この御領遺跡第７次，いつ調査したの」って聞かれたので，「去年調査したんですよ」って言ったら，「じゃあ船の絵は１年間秘密にしておられたんですか」っていうふうに言われて，「いやそうじゃないんですよ」っていうお話をさせてもらったことがあります。会場の中には，この調査に参加して一緒に発掘をさせてもらった作業員さんも何名かいらっしゃってますけれども，私らにも秘密にしとったんかというふうに言われてはいけませんので，どうやって見つかったっていう話を先にしておきたいと思います。

発掘調査をやっていたのは昨年度ですけれども，発掘調査の最中にはこの絵があるというのはわかりませんでした。土器というのは通常土の中から出てくるんですけれども，出てきたときには泥がいっぱい付いています。それを指で拭（ぬぐ）ったりすると，弥生土器は割と表面が軟らかいものですから，模様などの線が全部消えてしまう。あるいは線だけではなくて，土器にはどういう作り方をしただとか，どういう道具を使っ

てこの土器を作ったかとか，そういう痕跡もたくさん残っているんですけれども，泥がついた状態で拭ったりすると，そういう痕跡が全部消えてしまう可能性がありますので，発掘調査をやってるときにはできるだけ泥は取らないようにして持って帰るようにしております。去年の１月に発掘調査は終わりまして，出土した土器を洗い始めたのは４月になってからです。私どものところには，土器を洗ったりくっつけたり，そういう作業をしていただく作業員さんが何名かいらっしゃるんですが，大体１名から３名，平均すると毎日２名ぐらいの作業員さんにその土器を洗ってもらっておりました。先ほど言いましたように，土器の表面は軟らかいですから，ちょっとしたことでいろんな痕跡が飛んでしまいますので，たわしでゴシゴシというわけにはいきません。毛先の軟らかな筆でなでるように洗っていただいて，全部洗い終えたのが10月の半ばぐらいでした。約半年間ずっと洗ってもらっておりました。その当時，私は実は土器を洗う仕事を総括する立場でもありましたけれども，それと同時に福山市の天地遺跡というところで発掘調査も担当しておりました。私たちは毎週月曜日の朝，事務所で会議をやって，その後土器を洗ってくださる作業員さんと打ち合わせを行います。今週はこの土器を洗ってくださいとかですね，この点に気をつけてくださいとかいうふうな指示をして，それから月，火，水，木と現地に泊まって，金曜日の夕方まで発掘調査をして，それから広島の事務所に帰ってきます。事務所に帰ると，もう部屋は真っ暗なことが多くて，部屋には１週間作業員さんが洗ってくれた土器が並べてあるんですね。それをチェックして，次の月曜日，また会議があって，作業員さんに指示をしてというくり返しです。先週どうでしたか，順調に洗えましたとか，こういう点が難しかったですなど，いろいろ報告がありますので，それに対して，じゃあ今度そういう場合はこうしてくださいとか，今度はこういう仕事をしてくださいと指示をするといったようなことをずっと繰り返しておりました。あるとき「尾崎さん何かおもしろいのがあるんですけど」っていう報告を受けたんですね。後で記録を見ると，私がその報告をもらったのは，８月の中旬ぐらいでした。見ると，確かに何かおもしろ

い。皆さんにはこの部屋に入られる前に御覧いただいたと思いますけれども，弥生土器っていうのは，直線や波形の文様をつけることがよくありますが，そういう模様とはちょっと違う。何だろうな，確かに船には見えるなっていうのは頭の片隅にちょっと芽生えてはいたんですけれども，検討する時間もなく，すぐもう発掘調査に出発しなければいけない時間でしたので，何人かの同僚に，こんなもん出てますよっていう報告だけしてすぐ出発しました。１週間して，帰ってくると，室長が「尾崎君あれやっぱり船じゃないかな」っていうふうに言うんで，「ああ，やっぱり船なんですね」っていうお話をして，また次の週現場に行くんですね。金曜まで仕事して，帰ってくると，いつの間にかもう土器の写真が撮ってあって「尾崎君ここ，線が見えにくいんだけど，ここはこういう線があってこういうふうになってて，これ船のこういうところを表わしとるんじゃないかな」「ああ，そうですか，そうですよね」っていいながら話を聞いていました。

御領遺跡出土　舩の絵のある弥生土器

私が当時発掘調査していた福山市の天地遺跡というのは奈良時代，平安時代の遺跡なものですから，奈良時代，平安時代のことばかり当時勉強していて，船の話はもうちょっと後でまとめて検討しようかなと思っていたのですが，現場から帰ってくるたびに「尾崎君，ここの船のこの部分なんだけど，これはこういう表現で，ここは何かすごい内容を示してるんじゃないだろうか」というふうに話が進んで，その辺の中身はまた報告Ⅱのところで説明があると思いますけれども，そういうふうに検討が進んだのが８月の半ば以降でした。そこから伊藤室長を初めとする私どものスタッフがいろいろ検討して，これは今まであまり表現されてないようなことが表現されているのではないかということがわかっての新聞発表ということになりました。決して１年間秘密にしていたわけでもありませんし，大事にこれを隠しおこうとしていたわけでも

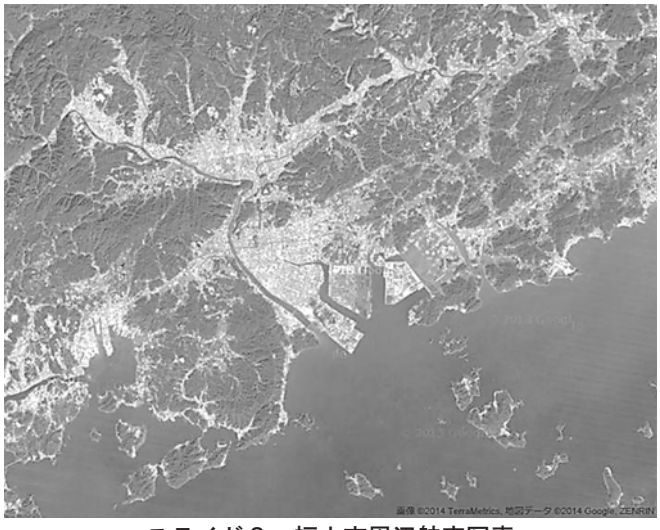
なくて，絵画土器の内容がはっきりした段階で，比較的早く皆様方には新聞報道等でお知らせすることができたということであります。

先ほども言いましたように，船の検討，私はその検討になかなか参加はできなかったんですけれども，ただこの船の絵を描いた土器がどういう場所から出てきたのか，これは私が直接担当した遺跡で，私でなければ話が難しいということで，きょうはトップバッター，報告Ｉで少しお話をさせていただくことになりました。

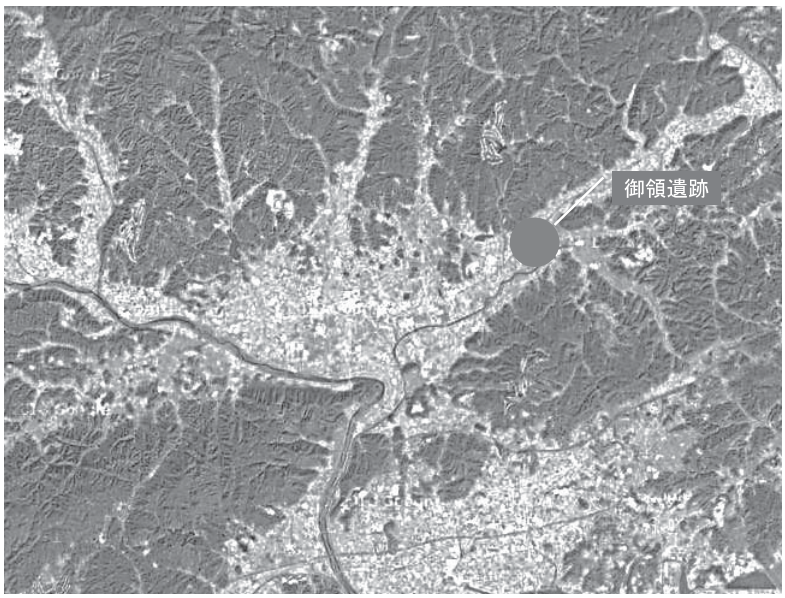
まず，御領遺跡の場所について御紹介をいたします。遺跡は福山市神辺町というところにあります。地図を見ていただきますと，岡山県のすぐ近くですね。車に乗って数分東に行くとすぐ岡山県という，そういう場所になります〔スライド１〕。

スライド１　御領遺跡の位置

これ〔スライド２〕は上空から撮った写真ですけれども，ちょうどここが，福山駅があるところです。東西方向に国道２号線とか，山陽新幹線とかが走っているルートがこのあたりになります。今，福山の市街地，平野部がこういう範囲で広がっておりますけれども，主には江戸時代，それから明治，大正，昭和に埋め立てられた平野部になります。広島県というのは，海岸沿いには余り大きな広い平野部っていうのはないんですけれども，この地域もやはり海沿いまでこういう山があ


スライド２　福山市周辺航空写真

る程度出ているような，そういう地形が広がっております。こちら側はもう岡山県になります。江戸時代の港町で有名な鞆（とも）がここにありますけれども，こういう地形の中で，御領遺跡っていうのがこの場所になります。画面の左側，西側から芦田川（あしだがわ）が流れていて，ここで南へ曲がって，そのまま瀬戸内海へ注ぐ，その曲がるあたりに非常に広い平野が広がっております。ちょっと拡大してご覧いただきたいと思いますけれども〔スライド３〕，芦田川がこういうルートで南へ折れていくということですね。御領遺跡は，この場所にあります。川が瀬戸内海へ出ていくときに，ちょうど細いルートを通って海へ注ぐことになります。ここは東西両側から丘陵が伸びております。その２つの丘陵に挟まれた非常に狭いところ，天然の狭い水門といいましょうか，ここを抜けて川が海へ出る。おそらく，古代の人たちが船で瀬戸内海へ出るとしますと，ここから瀬戸内海に眺望が広がるというような場所がこのあたりではないかなというふうに思います。



スライド３　御領遺跡周辺航空写真

弥生時代の遺跡は，このあたりにたくさん見つかっております。弥生時代だけではなくて，広島県でも有数の遺跡の密集地帯でありますけれども，こういう山の裾あたりですね，こういったところに遺跡がたくさん広がっております。当時の人々の生活の主な舞台はこういう山裾の部分というふうに考えられます。

一方，今は水田が広がっていますけれども，こういう平野の部分というのはあまり現在は遺跡が確認されておりません。これは，この当時はそこは広い湖のような形になっていたのではないかという説もあります。

御領遺跡は，今見ていただいた場所にあるわけですけれども，それを地図で見ますと，この範囲が御領遺跡の範囲になります〔スライド４〕。この地図は，福山市教育委員会がつくられた市内遺跡発掘調査報告書から引用しました。山に囲まれた平野部で東西が1,600メートル，南北1,400メートルの非常に広い範囲に遺跡が広がっております。今回の調査は御領遺跡第７次というふうに銘を打っておりますけれども，第７次っていうのは７回目の調査ということでもありますけれども，実はもう既に福山市教育委員会とか，あるいはその前身の神辺町教育委員会とか，あるいは広島県教育委員会がこの御領遺跡の発掘調査をずっと行っております。福山市教育委員会の担当の方にお話を伺ったときに，２年前でしたか，どのぐらい調査に入られてますかねえというお話をしたら，120次は超えてるんじゃないかな，つまり120回以上はもう調査をしてるんじゃないかなっていうお話を聞きました。

スライド４　御領遺跡周辺地図

今回，第７次といって，７番目の調査というのは，ここに国道313号線が走ってるんですが，非常に渋滞が多いということで，バイパスが計画されました。ここにちょっと薄赤い線も書いてますけども，これがバイパスのルートであります。この中で，発掘調査が行われたその回数が７番目ということになります。この太い赤線で囲んだ範囲が遺跡ではあるんですけれども，この中のどこを掘っても必ず遺構・遺物が出てくるかというと，実はそうではなくて，長い年月の間に，例えば田んぼをつくったり畑

をつくったりということで，高い場所を削ったりとか，あるいは工場ができたりとか，家をつくったりとかということで，遺跡のある層をもう既に削ってしまっている，そういう場所もたくさんあるんですね。ですから，このルートの中で，まず本当に発掘調査が必要な範囲はどこなのかということで，福山市教育委員会がある程度の間隔で試し掘りを行って，このあたりには遺構が残っている，このあたりには遺構が残ってないというのを確認をいたしました。その結果，このルートの中ではちょうどこのあたりですね，それからこのあたりで遺構が残っているという判断がなされ，発掘調査に至りました。私どものほうで，調査のほうを行って，第１次調査から第３次調査までがちょうどここら辺で行われました。それから，第４次調査から第７次調査がこのあたりで行われたということであります。

ちょっとアップにいたしました〔スライド５〕。赤で数字があったり，赤い点が打ってあったりしてますけれども，これは福山市教育委員会が調査を行ったその調査地点と調査次数です。75とか書いてあるのは，第75次調査が行われた場所ということになります。今回，私どもが行った調査は，この赤いラインの中，範囲内ということになるわけですけれども，この中で第７次調査が行われたのがちょうどこの場所ということになります。芦田川に流れ込む，高屋川という川がここを流れておりますけれども，この北側のエリアということになります。

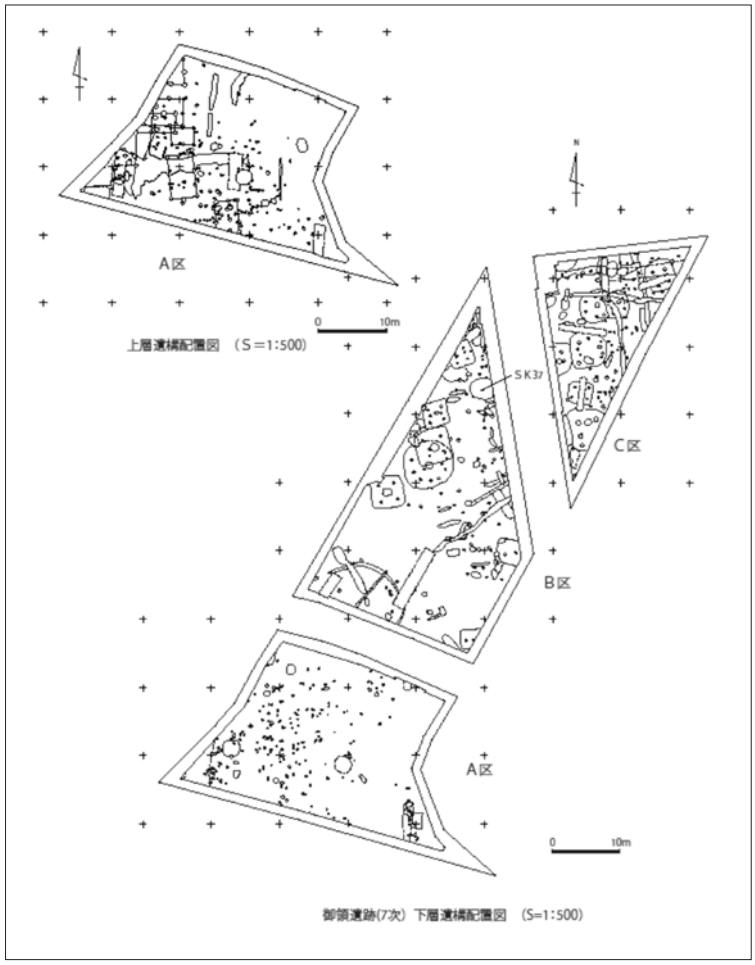
スライド５　御領遺跡周辺拡大図

少し写真を見ていただきたいと思います〔スライド６〕。

先ほど御紹介した高屋川がちょうどここ，奥のほうに見えますね。これは南側から撮った航空写真です。第７次調査の範囲がちょうどこの部分ですね。道路がずっと真っすぐ山にぶち当たっていく，ここはトンネルになるという計画のようなんですが，そのルートの中だけを発掘調査を行うということになりました。調査区の中には，既存の生活道路があって，ここと，ここにも道路があります。この道路の下にも，もしかしたら遺構があるのではないかと思われますが，生活道路として利用されているということで，これは後ほど工事のときに，工事に合わせて福山市教育委員会のほうで確認調査を行うということで，我々が実際に発掘調査をしたのは道路以外の部分です。ちなみに，第６次調査っていうのがちょうどこの川のすぐそばですね，ここで第６次調査が行われました。それから，手前のここが第５次調査が行われたところですね。さらに南側，画面の下のほうは，第４次調査の範囲ということになります。皆様お手元の資料の中で，４ページに，第７次調査の遺構配置図というのをつけさせていただいております〔スライド７〕。小さな丸い線がいっぱい書かれていてごちゃごちゃしてて非常にちょっとわかりにくいんですけれども，この道路に挟まれた範囲で，一番南側，このエリアをＡ区としました。それから真ん中のエリア，これをＢ区としました。最後の北側の三角形のエリアこれをＣ区としました。ここが一番この調査区の中では高いところですね。北から南に向けて徐々に低くなっていく地形になっておりますけれども，標高は低いところで約17.3メートル，高いところでは約17.7メートル，もうほとんど水平の地形ではありますけれども，多少南に向かって下がっている地形になっております。

スライド６　御領遺跡７次航空写真（南より）

今度は逆に，北側から撮った航空写真です〔スライド８〕。先ほどの三角形のＣ区がここですね。それからここはＢ区，それからこっちがＡ区です。こちらがずっと道路の予定地が伸びている状況。もう４次調査，それから５次調査は調査が終わってここは工事に入っているところです。この道まで道路は開通して供用開始されております。



スライド７　御領遺跡７次遺構配置図

北側から見ますと，こちらへ山がずっと伸びていて，奥のほうにも山が伸びているという状況，小さくてわかりにくいんですが，この山が切れたところが瀬戸内海へ出る狭い，水門のような場所ではないかと思います。この写真に写ってるほぼ全体が御領遺跡の範囲ということになります。

スライド８　御領遺跡７次航空写真（北より）

これは調査でどんなものが見つかったかというのを図にしたものなんですが〔スライド７〕，先ほど来申し上げているように，ここがＡ区ですね，Ｂ区，Ｃ区です。Ａ区はここにもう一つ，同じような形のものがありますけれども，Ａ区っていうのは土

層の重なりの中で，下の層よりも20センチ高いところで，奈良時代の建物の跡とか，井戸の跡とかが出てきました。その奈良時代のものが見つかって，さらに20センチ下まで掘ったら，今度は弥生時代と古墳時代のものが見つかったということで，Ａ区に関しては，奈良時代はこういうものが見つかりました，それから弥生時代，古墳時代はこういうものが見つかりましたということで，２つ表記をしております。Ｂ区，Ｃ区については，土層の重なりが確認できませんでした。奈良時代も弥生時代も古墳時代も同じ土層で出てきました。

今回，船の絵が出てきました穴が，記号が小さくて申しわけありませんが，ここにＳＫ37というふうに書いてありますけれども，この穴を調査したときに，この土器が出てきました。ＳＫ37，非常にわかりにくい専門家が使うような記号が出てますけれども，このＳＫの，Ｓというのは地面に刻まれたいろんな穴とか，そういう痕跡全部を指してＳとつけてます。その穴がどういう使われ方をされたのかっていうので，Ａから順番に，例えばＡっていうのは柵の跡を指してます。Ｂっていうのは建物の跡，Ｃが道路の跡，Ｄが溝の跡，Ｅが井戸の跡ですね，何かの頭文字というわけではなくて，Ａから順番にこれはどういうものの，何の跡かというのを表現する記号として，このＳＡ，ＳＢ，ＳＣという記号を使ってます。一つ一つ，例えば竪穴住居を第１号竪穴住居跡，言えば２秒ぐらいで言えますけれども，書こうと思うと非常に大変な手間になってしまいますから，そうではなくてもうＳＢ１とかＳＢ２とかそういう記号で表現しようということで，ほぼ全国的にこういう記号を使っております。ＳＫというのはですから，ＳＡ，Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｆ，Ｇ，Ｈ，Ｉ，Ｊ，Ｋ，と数えると11番目につけられた記号で，遺跡の中で比較的整った穴に対してこのＳＫという番号を今回つけております。

皆さんお手元の資料の中では，土坑という言葉を使っています。非常にわかりにくい言葉ではありますけれども，簡単な言葉に直せば穴ですね，ＳＫ37というのは，37番目に調査をした穴という意味であります。この中で，奈良時代のものを先ほど御紹

介しましたけれども，弥生時代後期から古墳時代中期にかけての竪穴住居が非常にたくさん見つかりました。画面のほうを見ていただきますと〔スライド７〕，こういう四角い形のものですね，ちょっと丸っぽい形のものとか，これが弥生時代から古墳時代にかけて人々が生活をしていた竪穴住居跡です。ここへ１軒だけ離れて竪穴住居があるんですけれども，これだけちょっと外れにあるんですが，それ以外は大体この北側に集中しています。弥生時代後期のものが多いんですけども，弥生時代というのは何百年間か非常に長い時間なんですけれども，例えば土器の形とか，そういういろいろな要素から，前期・中期・後期という３つの区分に分かれています。弥生時代後期が終わると，古墳時代に入っていくわけですけれども，弥生時代の後期もさらに３つに分けることがあります。弥生時代後期の中で，３つに分けるときには，前葉（ぜんよう）・中葉（ちゅうよう）・後葉（こうよう）という言い方をします。葉というのは葉っぱの葉の字を書きますけれども，この後のお話で前葉・中葉・後葉といいますけれども，弥生時代後期を３つに分けたときの呼称だなというふうに思っていただければ結構だと思います。

このあたりに出てくる竪穴住居っていうのは，新しいものでは古墳時代の中期のものもあるんですが，弥生時代後期のものがほとんどです。これは北側からＣ区を見たところです〔スライド９〕。

スライド９　Ｃ区（北より）

たくさんの穴ぼこがある状況が映し出されておりますけれども，先ほど御紹介した竪穴住居というのは，こういうところですね。あるいはここにも竪穴住居があって，これも竪穴住居で，ここも竪穴住居です。これは半分しか出てませんけれど，おそらく道路の下へ続いているんだと思います。ここの竪穴住居で，ここととここにも竪穴住居があるということで，非常にたくさんの竪穴住居

が密集しています。ただ，これらの家は一度に建っていたかというと，必ずしもそうではなくて，これだけ接近してると屋根と屋根がぶつかったりもしますから，これはおそらく造られては壊され，壊されというか使われなくなって，また埋まって，さらにまた新しく造ってという，何百年間かの間に連続してつくられた，そういう跡だと思います。

これＢ区ですね〔スライド10〕。ここへ竪穴住居があって，ここにも竪穴住居があるんですが，きょう出てきたお話の中心となるのはこの穴ですね，ここのあたりになります。これは穴を掘り上げる前に，一番最初に確認した段階です〔スライド11〕。これは何かごちゃごちゃいっぱいありますけれども，これが話題の中心となりますＳＫ37です。表面に非常にたくさん土器がありました。何なのか最初よくわかりませんでした。大体３メートルぐらいの範囲に広がっています。

スライド10　Ｂ区（南より）

反対側から見たところなんですが，これがＳＫ37です〔スライド12〕。

スライド11　ＳＫ37（東より）

スライド12　ＳＫ37（西より）

スライド13　B区（南より）

スライド14　ＳＫ37作業風景

ここにも一つたくさんの土器がある穴なんですが，この写真で見ていただきたいのが，ここが道路です〔スライド13〕。この道路から50センチぐらい下がったところで，おそらくここはもともと家があったところで，お宅をつくられるときに田んぼに盛り土をして家を建てられたんだと思うんですが，古い田んぼの面が出てきて，そこからさらに50センチ下がったところ，今の地表面から１メートルぐらい下がったところでこの穴を確認いたしました。

穴から出てきた土器は，全部測（はか）って取り上げておりましたけれども，余りにも多いものですから，途中からどんどん頑張って取り上げようと，ここでこれだけ出ておりますけれども，まだまだたくさん土器が出てまいりました〔スライド14〕。

まず半分掘って土層の断面を確認しました。深さは80センチぐらいあるんですけれども，その上の半分，深さ40センチぐらいのところまでに非常にたくさんの土器が埋まっている状況が明らかになりました〔スライド15〕。

スライド15　ＳＫ37土層断面

一番下，ちょっと白っぽいものが転々としているのをごらんいただけますでょうか。これは貝殻ですね，貝殻が非常にもろくなっていて，半分ぐらい粉になっているような，そういうものがたくさん見つかっております。

スライド16　ＳＫ37土層断面アップ

アップです。土器がたくさん出ている状況がおわかりいただけるかと思います〔スライド16〕。

一番下の層からは，こういう，これは何かというと，土です。土にこういう跡がたくさん出てまいりました。先ほど御紹介したように，貝殻がたくさん出てきたんですけれども，恐らく掘ったときに見た貝殻よりも数倍の貝殻がここにあったという，その痕跡だと思います〔スライド17〕。

スライド17　土に残る貝殻の痕跡

日本の土は，酸性土壌で，貝殻はアルカリ性なので溶けてしまうことが多いんですね。土の中に残った痕跡で貝殻の存在がわかる，貝本体は多分これは溶けてしまってるんだと思います。この痕跡から，貝の種類について詳しい方にお話を伺ったら，おそらくハイガイではないかということでありました。このハイガイというのは，今は絶滅危惧種になっているということで，九州の有明海のあたりにはまだ比較的群生が見られるそうなんですが，もともとは日本各地で見られた貝だそうですけれども，今はあまり見ることがなくなった貝だそうです。

貝のほかにも，１点だけなんですけれども，こういう白いものが出てきました〔スライド18〕。シカの角ではないかなというふうに思います。特に何か加工してあったりとか，切り落とした痕跡であるとか，道具にした痕跡であるとか，そういったものは確認できませんでした。

スライド18　シカの角の出土状況

最後にまとめをさせていただきます〔スライド19〕。

御領遺跡（第７次）

弥生時代後期（約2000年前）から古墳時代中期（約1500年前）にかけて営まれた集落

船の絵を描いた土器は，多量の土器が出土した土坑から出土

⇒何らかのマツリが行われた場所か？

スライド19　まとめ

御領遺跡第７次調査では，弥生時代後期から古墳時代中期にかけて営まれた集落が確認されました。弥生時代の後期というのは，今から約2,000年前ではありますけれども，今回出土した船の絵が出た穴というのは，おそらく後期後葉の時期に当たり，1,800年ぐらい前の土器ではないかなというふうに思います。西暦で言うと200年ぐらいの土器ですけれども，この西暦200年というのは，あと数十年すると日本のどこかに邪馬台国があって，卑弥呼が生まれる前か生まれたころか，そういう時代に当たります。ですから，土器に描かれた船の絵というのは，おそらく古墳時代直前の弥生時代の状況を示したものではないかなというふうに思います。船の絵を描いた土器は，たくさんの土器が出土した穴から見つかりました。実

はまだ，整理作業は終了していないので，どのぐらいのものが出てきたのか，どのくらいの数の土器がその穴にあったのかっていうのはよくわからないんです。あと１年ぐらいしたら何個体ぐらい土器があって，こんな感じだったんですよっていうお話ができるんですが，今はまだ整理途中で，なかなかこれ以上の詳しいお話ができないのが残念なんですが，なぜあんなにたくさん土器があったのか，例えば日常的なものを捨てたにしては余りにも数が多過ぎることもありますので，何かのマツリが行われた跡ではないかなというふうに考えております。このあたりは土器の整理を進めて，また皆さんに御報告をさせていただきたいと思います。

以上で私の発表を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

出典一覧

スライド１～３：発表者作成

スライド４・５：福山市教育委員会『福山市内遺跡発掘調査概要Ⅷ－2012年度（平成24年度）－』4頁　御領遺跡調査地点位置図より引用

スライド６～19：発表者作成